



# 見沼小だより

令和5年度 第2号  
令和5年4月28日発行  
TEL 048-663-7342  
<https://minuma-e.saitama-city.ed.jp/>

めざす児童像 世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子

## 我が子と過ごせる時間

校長 佐藤 俊夫

大型連休がやってきます。今年は5月1日が「さいたま市民の日」となって、学校が休業となる初めての年です。そして5月2日は5月13日(土)に児童引き渡し訓練があるため、その振替休業日となりますので、実に9連休となります。長い休みとなりますが、子どもたちとご家族が共に過ごせる大切な時間と捉え、是非、有意義に過ごしていただけると幸いです。

以前、NHKの「チョコちゃんに叱られる！」という番組で我が子と一生のうち一緒に過ごせる時間は母親で約7年6か月(約65,700時間)、父親は約3年4か月(約29,200時間)、という短さだと紹介されました。関西大学社会学部の保田時男教授の説明によると小学校卒業する時点で、一生のうち子どもと過ごせる時間の半分以上の55%が過ぎ去ってしまい、高校卒業で親元を離れるころには73%も過ぎ去ってしまうのだそうです。この計算方法を使うと、共働き家庭はもっと少なくなるという見解もあるそうです。いずれにせよ子どもたちと一緒に過ごせる時間が、実はほんの僅かしかないのだ、ということに気付かされる内容でした。

思い起こせば、私の娘も中学生になってからは、部活やら勉強やらで、友達と過ごす時間が大半となり、家族と過ごす時間はめっきり減ったように思います。小学生の頃が共に過ごせるピークだったのは実感としてよくわかります。以前、私はプラネタリウムに勤めていたため、週末は休みが取りにくく、子どもたちと時間が合いませんでした。何とか家族での時間を作ろうと、時には平日に学校を休ませるなどして(当時の担任の先生、ごめんなさい)、なるべく一緒に過ごすよう努力したことが思い出されます。自分の好きな分野である全国の科学館や天文・宇宙関連施設、科学教室などを連れ回しました。流星群の日は山間部や海辺の星が良く見えるところにも連れて行きました。時にはスペースシャトルの打ち上げを見せに、NASAまで連れて行ってしまいました。そのおかげで・・・すっかり、「宇宙はもういい・・・」、となってしまいました。親の心子知らずとはよく言ったものです。教訓・・・、やり過ぎはよくありません。

中学生以降は、あまり一緒に過ごせなくなったのですが、実は成人してからは、時々ではありますが、一緒に過ごす時間がとれています。「いい店見つけたから一緒に飲みに行く？」と若者向けのおしゃれな店に誘ってくれることがあります。父親としては、とても嬉しい事です。友達と一緒に出掛けることが大半ではあるディズニーリゾートにも、たまに一緒に行ってくれます。「時々」ではありますが、チケットが余っているからどう？と男性アイドルや有名バンドのコンサートにも誘ってくれます。(back numberの東京ドーム、感動しました!)年頃の娘が父親を誘うということは余りないと聞きますが、これも子どもの頃、なるべく一緒に過ごす時間を作ってきた成果なのかな？と勝手に思い込んでいます。本当は父親の財布がめあてなのかもしれませんが・・・。

いずれにせよ、子どもたちと過ごす時間は限られています。小学校時代の貴重な時間を無駄にすることなく、このゴールデンウィーク、たくさんの愛情を子どもたちに注いでください。お金をかけて遠くに行くだけではないと思います。同じ時間と空間を共有できればいい。公園でも本校の校庭でも・・・。夕飯の買い物にスーパーに行くのだって。一緒にできるのであれば、ゲームをすることだって大切な時間です。小学校時代、我が子と共に過ごす時間は限られています。有意義なものにしてほしいと願っています。